

基地から派生する被害

◆騒音被害

市と県では、市内8カ所に騒音測定器を設置しています。

測定基準

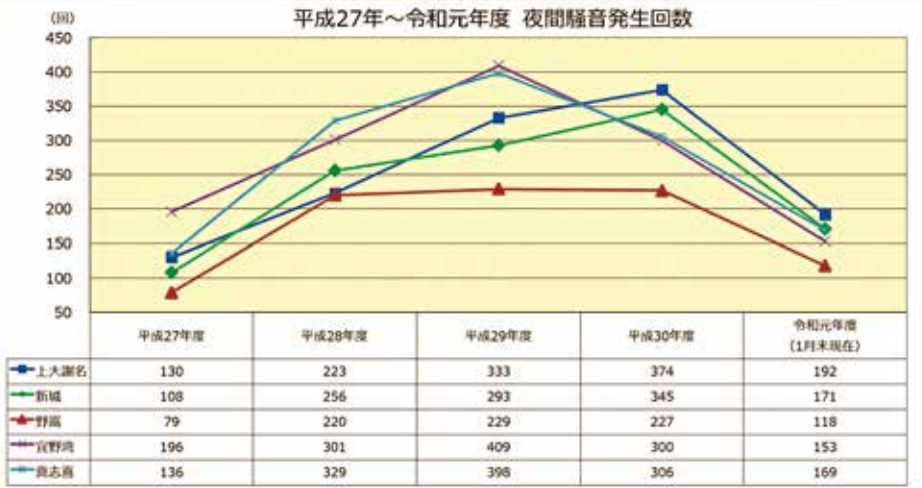
- ・騒音値が暗騒音レベル(環境騒音)より10dB以上大きいもの
- ・騒音が5秒以上継続するもの
- ・航空機が発したトランスポンダ応答信号電波を受信したもの



平成22年～令和元年度 航空機騒音発生回数



平成27年～令和元年度 夜間騒音発生回数



22時から翌朝6時までの米軍機の飛行は、日米間の航空機騒音規制措置において制限されているにも関わらず、度々騒音が測定されており、夜間騒音に関する市民からの苦情も数多く寄せられています。

令和元年度（1月末現在）は、上大謝名地区で**190回を超える夜間騒音**が確認されています。

◆地デジ受信障害

地デジ受信障害に関する苦情

H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
324件	72件	37件	28件	18件
H28年度	H29年度	H30年度	R元年度 (1月末現在)	
16件	26件	28件	12件	

米軍機が住宅地上空を通過すると、地上デジタル放送の受信障害が発生するといった声が寄せられており、国に対策を求めたところ、沖縄防衛局の調査により認定された野高・普天間・新城の一部区域については、平成23年度に防衛省の補助金を活用し、市が対策を実施しました。しかしながら、対策が行われた区域以外からも同様の声が寄せられていることから、引き続き米軍機が起因する地デジ受信障害の解消に向け取り組んでおります。

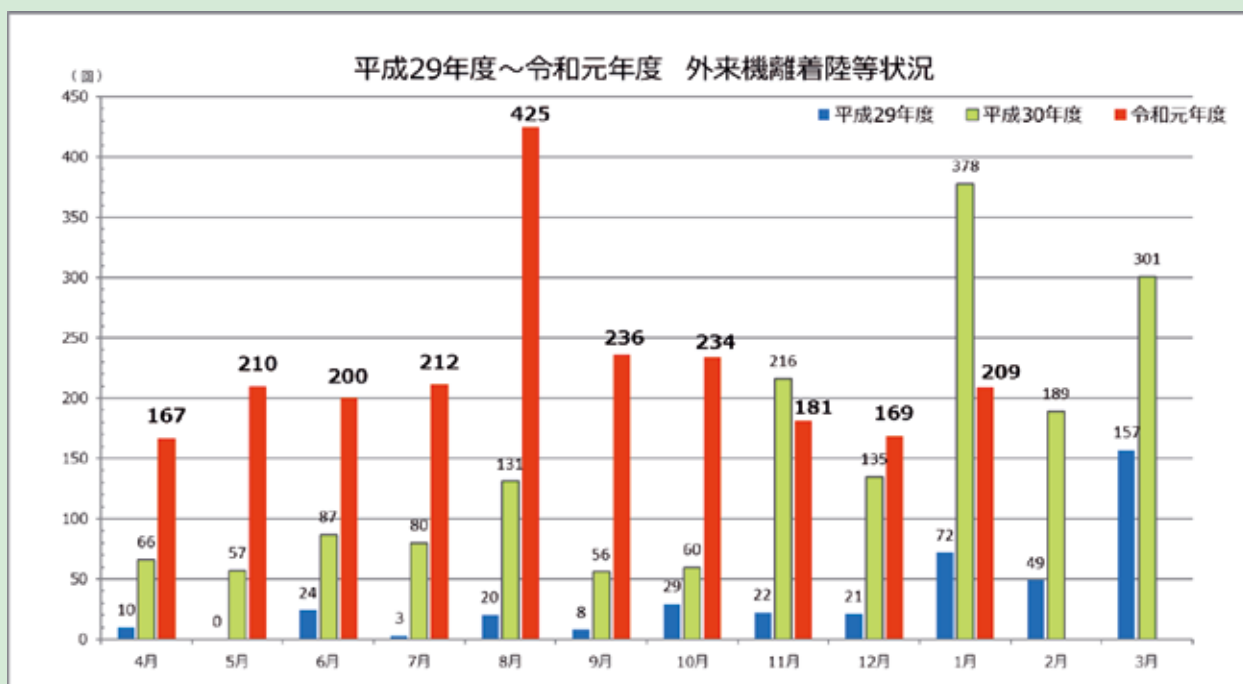
◆外来機飛来（普天間飛行場に所属する常駐機以外の機種）

外来機の飛来は住民生活に大きな影響を及ぼすことから市としては容認できないものとし、飛来しないよう強く求めておりますが、令和元年度は昨年度と比較して外来機の飛来が相次いでいる現状にあります。また、外来機の飛来に伴い、100デシベル以上の非常に大きな騒音が測定されることから騒音被害は深刻な状況です。

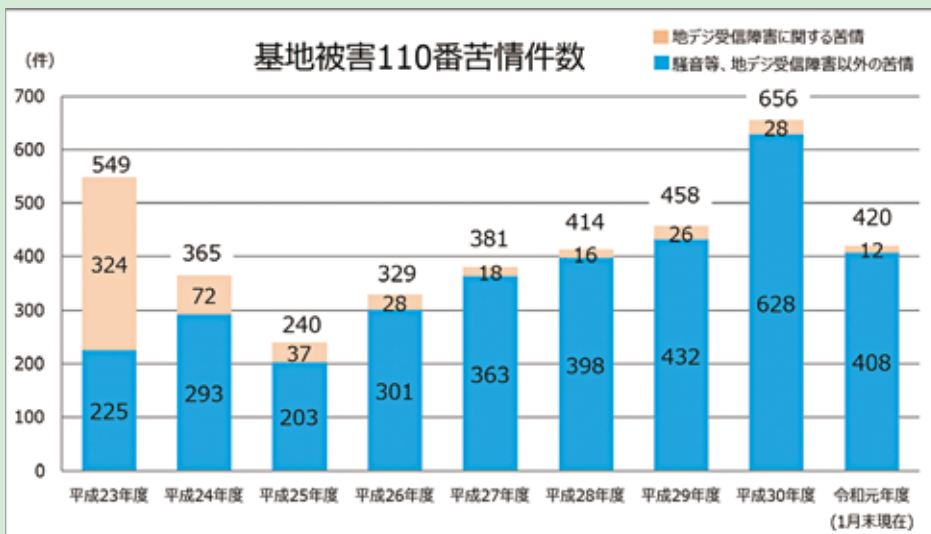
* 主な外来機飛来（平成31年4月～令和2年1月）

固定翼機			
UC-12	480回	KC-135	103回
セスナ	360回	KC-130	89回
P-8	360回	MC-130	89回
UC-35	359回	P-8A	70回

戦闘機	
F-35	56回
FA-18	32回
F-15	17回



基地被害110番



宜野湾市では、夜間・休日の騒音苦情窓口として基地被害110番を設置し、留守番電話にて24時間苦情を受け付けております。

宜野湾市 基地被害110番 ☎ 893-4400

宜野湾市では昼夜を問わず基地から発生する騒音等の苦情について、職員の勤務時間外にも対応できるよう、留守番電話専用回線である「**基地被害110番**」を設置しております。市へ寄せられた声は市長まで目を通し、翌日までに米軍と沖縄防衛局へ届け、市民生活への配慮を申し入れております。また、特に騒音が激化した際などは適宜、米軍および沖縄防衛局等へ抗議・要請を行っております。

また、防音工事につきましても、市内全域から騒音に関する苦情が寄せられているにも関わらず、助成対象区域が限られていることから区域の拡大を求めています。

◆事故の危険性

普天間飛行場所属機による事故・予防着陸等

149回

(平均：約3回/年)

※件数は本土復帰から令和元年度1月末までに集計



平成29年10月11日 東村高江にてCH-53Eヘリの火災

最近の主な普天間飛行場所属機の事故等（令和2年1月末現在）

発生年月日	事故の概要
平成28年 1月29日	KC-130空中給油機が飛行中に除氷ブーツであるゴム片を遺失。
12月13日	MV-22オスプレイが夜間の空中給油訓練中にブレードを損傷。飛行が不安定となり、浅瀬に不時着水。着水時の衝撃により機体にかなりの損傷が生じた。
12月13日	同日に不時着水したオスプレイからの救難連絡を受け空中監視任務を終えて普天間基地に帰還したが、着陸装置(脚部)を機体から出すことができず、衝撃を吸収するパッドの上に着陸。
平成29年 1月11日	CH-53ヘリ1機が前脚降着装置に機械的障害を起こした。その後、クレーンを使用し機体前部を持ち上げた上で必要な整備が行われた。前脚降着装置の障害は着陸時によるものではないとのこと。
1月20日	AH-1Zヘリが飛行中、警告ランプがついたため、伊計島の農道に不時着。
6月1日	CH-53Eヘリが訓練中に警告灯が点灯したため、久米島空港に予防着陸。
6月6日	MV-22オスプレイが飛行中に警告灯が点灯したため、伊江島補助飛行場に予防着陸。
6月10日	MV-22オスプレイが鹿児島県奄美諸島沖を訓練中に警告灯が点灯したため、奄美空港に予防着陸。
8月5日	MV-22オスプレイがオーストラリア東海岸沖で、海上を移動中の艦船への着艦の際に事故が発生。乗員26名中3名死亡。
8月29日	MV-22オスプレイが岩国航空基地から普天間飛行場へ向かう途中、パイロットがエンジンの一つにトラブルを察知し、大分空港に予防着陸。着陸の際に白煙及び煙を確認。
9月29日	MV-22オスプレイがフィリピンに移動のため飛行中、エンジントラブルによる警告灯が点灯したため、新石垣空港に予防着陸。
10月11日	CH-53Eヘリが飛行中の火災により北部訓練場外に緊急着陸し、その後機体が炎上。
12月7日	市内保育園の屋根で落下物と思われるCH-53Eヘリの部品を発見。
12月13日	普天間第二小学校グラウンドにCH-53Eヘリの窓(約1m四方、重さ7.7キロ)が落下。
平成30年 1月6日	UH-1Yヘリが飛行中にメインローターの回転速度超過を示す警告表示により、うるま市伊計島の浜辺に緊急着陸。
1月8日	AH-1Zヘリが飛行中にテールローターのギアボックスで微小な電気的事象を検知し警告灯が点灯したため、読谷村内に予防着陸。
1月23日	AH-1Zヘリが訓練中に警告表示を受け、渡名喜村内のヘリパットに予防着陸。
2月8日	うるま市伊計島の海岸に、前日飛行したMV-22オスプレイ右側エンジンの空気取り入れ口の部品が漂着。
4月18日	UH-1Yヘリ1機の警告灯が点灯し、熊本空港に予防着陸。
4月25日	MV-22オスプレイがコックピット内の表示を受け、奄美空港に予防着陸。
8月14日	MV-22オスプレイがコックピット内の警告灯点灯のため奄美空港に予防着陸。
9月5日	UH-1Yヘリがコックピット内の警告灯点灯のため久米島空港に予防着陸。
10月25日	MV-22オスプレイが奄美空港に予防着陸。
平成31年2月6日	AH-1ヘリが警告灯点灯のため、予防着陸。
3月27日	MV-22オスプレイがコックピット内の警告灯の点灯のため、沖伊良部空港に着陸。
4月1日	MV-22オスプレイがコックピット内の警告灯の点灯のため、伊丹空港に着陸。
令和元年6月4日	CH-53Eヘリのブレードテープ(ヘリコプターのブレード前縁を保護目的としたゴム製の保護テープ)の一部が落下。
8月27日	CH-53Eヘリ1機が普天間飛行場に帰投した際、後方の客室の窓が遺失していることを発見。
9月4日	UH-1ヘリ1機が誤って北部訓練場返還跡地内の旧ヘリパッドに着陸。
10月21日	CH-53Eヘリが予定された給油のため種子島空港に着陸したが、その後メンテナンス上の問題が発生。
10月26日	AH-1Zヘリが不具合を起こし、旧種子島空港に予防着陸。